

## 北浦小学校見学会

2013年11月28日

見学会では、吉野作造の業績や「民本主義」とは何か、大正時代の風景などを、写真を用いながら説明しました。生徒の皆さんは、吉野や、地元の偉大な先輩たちに、大いに関心を持ってくれたようです。ここで、頂いた感想文の一部を紹介させていただきます。



### 吉野作造記念館を見学して

吉野作造さんは、生涯ずっと民本主義と主張していて、国民の自由を願っていたんじゃないかなと思いました。

それに、1922年に出版した論文は、国や軍を批判するくらいの論文なのです。いいなあと思いました。

けれども、けっきょく戦争がはじまってしまい、作造さんの願いはとどかず、残念だなあと思いました。

(佐々木泰我くん)

吉野作造記念館を見学して、吉野作造さんはどんなことをした人かや、どんな人が分かりました。作造さんはみんなが集まってみんなが決めるしくみ、民本主義を主張し、大正デモクラシーの中心となった人で、本当に国民全体が幸せになってほしいと考えていたんだなと思いました。

(鈴木満理奈さん)

## 古川高等学校見学会

2014年3月13日～18日

3月13日、14日、18日の三回に分けて、宮城県古川高等



学校の一年生240名の皆さんが見学に来ました。

見学に先立ち、当館の大川副館長は、マイケル・サンデルやアウンサンスーチーの発言を引きながら「政治参加とはどういうことか」をテーマに講演し、未来を担う若い高校生たちに、政治に対する問題意識を持つよう呼びかけました。見学後、頂いた感想の一部をご紹介します。

吉野作造さんは中学の頃の社会で学びましたが、古川出身ということはあまり詳しく知りませんでした。また、「大正デモクラシー」という言葉は知っていましたが、その意味などはよく考えたことがなかったのです。今回の講話は将来の日本について考える良いきっかけになると思います。

講話の中で特に気になったのが、参政権についてでした。よく考えると、現在の先進国と呼ばれるような国ではほとんどが、国民が政治に参加できるような参政権があり、国民が、政治において大きな役割を担っていると思います。しかし、日本では、その参政権において、選挙での投票率が減少してきているというのとはとても大きな問題であると思います。政治に対しておまかせの意識があるのは、本当の民主主義と言えるのか疑問に感じました。ですが、政治がだんだんと専門的になってきて、国民が政治について分からない、関心がなくなっていく状況になるのも分かる気がします。これからは政治に対して関心を深めるため、新聞やニュースなどに目を通し、また自分も選挙という形

で参加していけたらいいと思います。

(四組 四倉 若菜さん)

私は正直、吉野作造について関心が無かったが、実際に記念館に行ってみてその人物像を知ることができた。

彼は一生涯学問に励み、国民のために「民本主義」を唱えて世の中を変えようとした。堂々と自分の意見を曲げないその彼の姿勢は、彼の知識、努力、勇気を象徴しているのではと私は強く感じた。決して一般人にできる行動ではないと私は思う。そして、その行動力を私達も見習うべきであると思う。遠い昔の人のように思われた彼の思想が、現在まで受け継がれているのはとても凄いことである。

最後に、歴史に名を残す人達は皆、当時の社会情勢や背景にとらわれない自由な発想や強い意志があったのだと思う。今まで私は、そのような人が身近な人とは思ってきませんでした。しかし今回の見学で、日本の歴史に名を残す人が身近にいたのだと実感することができた。

(二組 伊藤 立一さん)